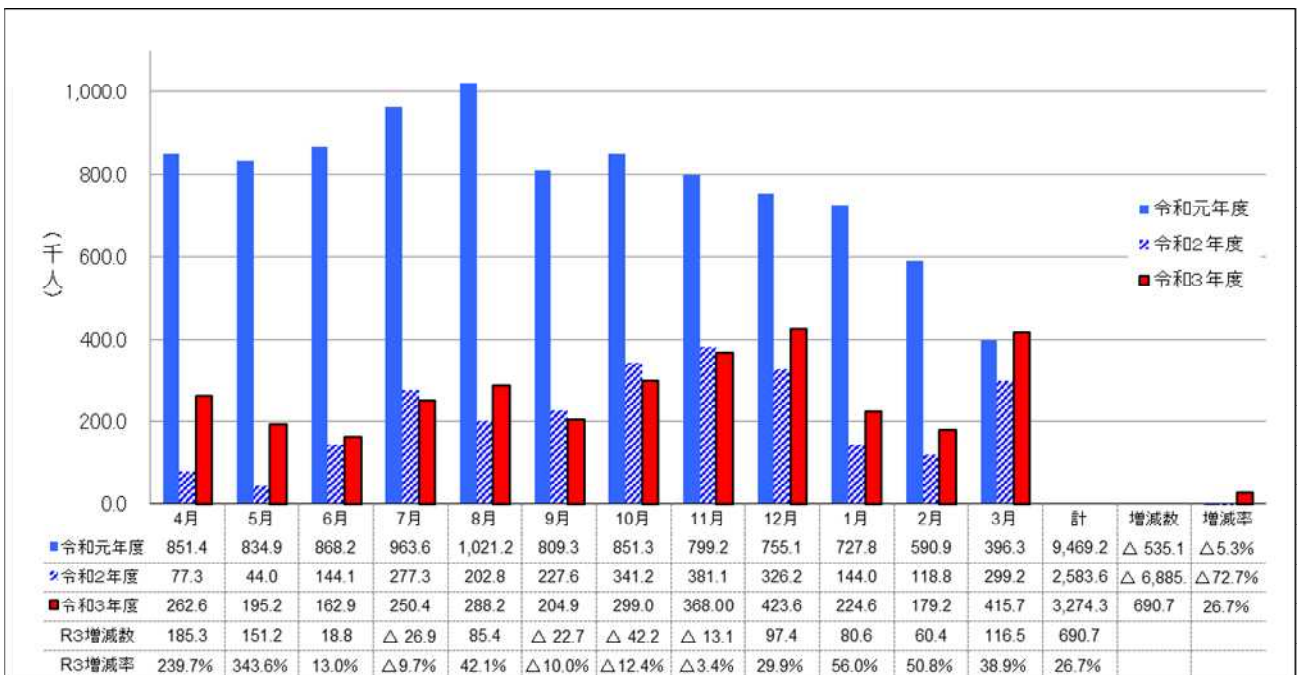


令和3年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和4年4月発表

令和3年度の観光客数は、327万4,300人
 対前年度（R2）比 +69万700人、+26.7%
 ※対前々年度（R1）比 -619万4,900人、-65.4%
 ～3年ぶりに増加に転じる～

■月別入域観光客数の推移（令和元年度～令和3年度）



■令和3年度の概況（総括）

令和3年度の入域観光客数は327万4,300人で、対前年度比で69万700人、率にして26.7%の増加となり、3年ぶりに増加に転じた。しかし、対前々年度比では619万4,900人の減、率にして65.4%の減少となっており、厳しい状況が続いている。

令和2年度と比べて増加した要因は、次のとおりと考えられる。

- ワクチン接種の普及
- 国内航空路線における減便規模の縮小
- 夏季期間における季節便運航
- プロ野球キャンプの有観客での実施 など

■令和4年度の見通し

国内客については、新型コロナウイルス感染症による影響が見込まれるものの、ワクチン接種の普及や経口治療薬の普及、Go To トラベル事業の実施などによる旅行需要の回復が期待される。

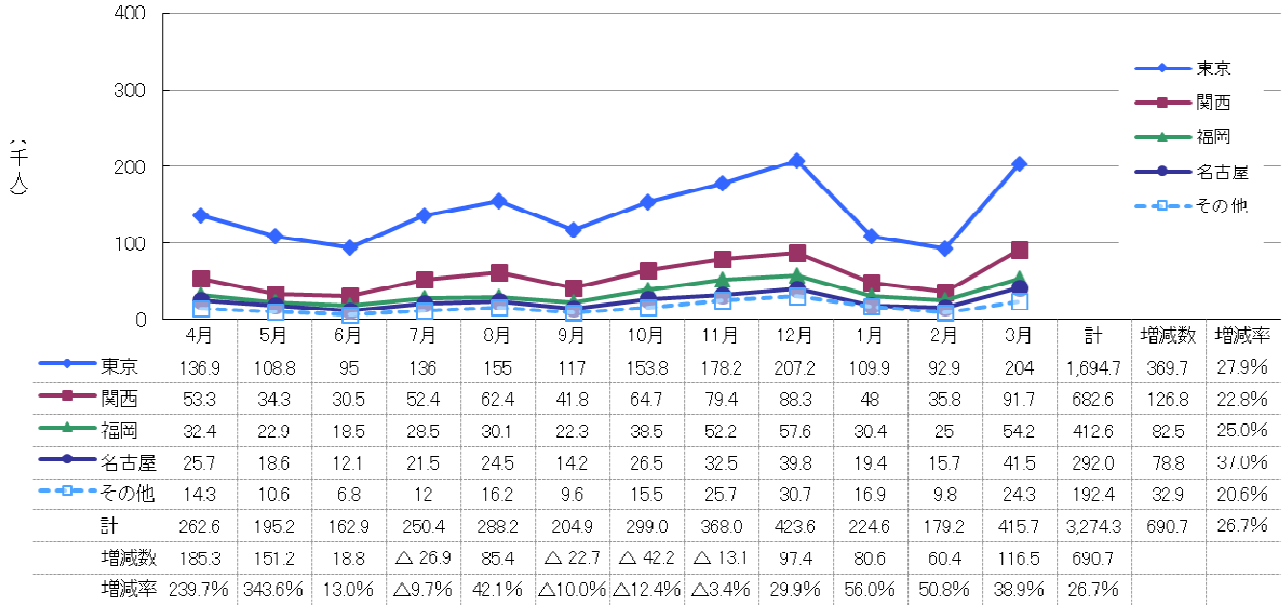
また、外国客については、日本への入国制限措置が段階的に緩和されているものの、観光目的での入国は認められていないことから、当面厳しい状況が見込まれる。しかし、規制緩和に方針転換する国が増えてきており、国内外の動向に注視していく必要がある。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

令和3年度の国内客は、対前年度比で69万700人、率にして26.7%増の327万4,300人となり、3年ぶりに増加に転じた。

■令和3年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

令和3年度は、令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛等から、国内旅行需要は低調となった。しかし、令和2年度と比べると増加しており、ワクチン接種の普及などが影響したものと考えられる。

4月のまん延防止等重点措置に続き、5月から9月までの長期間にわたり緊急事態措置が適用され、感染状況が落ち着いた11月以降、段階的な経済活動再開により徐々に回復傾向が見られたものの、1月以降再びまん延防止等重点措置が適用となるなど、コロナ禍による影響が大きかった。

【方面別の動向】

東京方面 減便規模の縮小や、羽田-宮古路線などにおける増便、羽田-那覇路線の新規開設があったことなどから、前年度を上回った。

関西方面 減便規模の縮小や、伊丹-那覇路線などにおける増便があったことなどから、前年度を上回った。

福岡方面 減便規模の縮小や、福岡-那覇路線などにおける増便、福岡-石垣路線の新規開設があったことなどから、前年度を上回った。

名古屋方面 減便規模の縮小や、中部-那覇路線などにおける増便、中部-宮古路線の新規開設があったことなどから、前年度を上回った。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

令和3年度の外国客は、令和2年度に続き2年連続で0人となった。

■外国人観光客の概況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響から、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことにより、外国人観光客がゼロとなった。

令和3年(2021)4月 入域観光客数概況

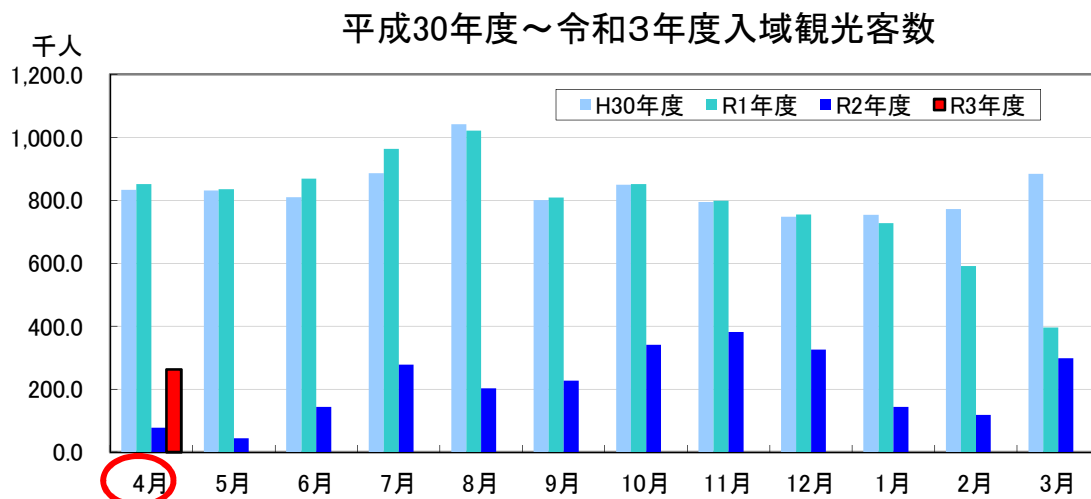
26万2,600人
 対前年(R2)同月比 +18万5,300人、+239.7%
 ～16ヶ月ぶりに対前年同月比で増加に転じる～
 ※対前々年(H31)同月比 △58万8,800人、△69.2%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較) ※外国客については、乗務員等を含む

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	262,600 人	77,300 人	+ 185,300人	+ 239.7%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	皆減	0.0%
合計	262,600 人	77,300 人	+ 185,300人	+ 239.7%	100.0%

(参考)乗務員等を除いた入域観光客数 R3年度 262,600人 R2年度 77,300人



国内客 入域状況

4月は、前年同月が全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言による移動自粛の要請が一部地域であった影響などから、前年同月を大きく上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

5月は、航空路線での運休・減便やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、また、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

4月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続き皆減となった。

5月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	136,900 人	35,700 人	+ 101,200人	+ 283.5%	52.1%
関西方面	53,300 人	15,900 人	+ 37,400人	+ 235.2%	20.3%
福岡方面	32,400 人	11,400 人	+ 21,000人	+ 184.2%	12.3%
名古屋	25,700 人	6,100 人	+ 19,600人	+ 321.3%	9.8%
その他	14,300 人	8,200 人	+ 6,100人	+ 74.4%	5.4%
合計	262,600 人	77,300 人	+ 185,300人	+ 239.7%	100.0%

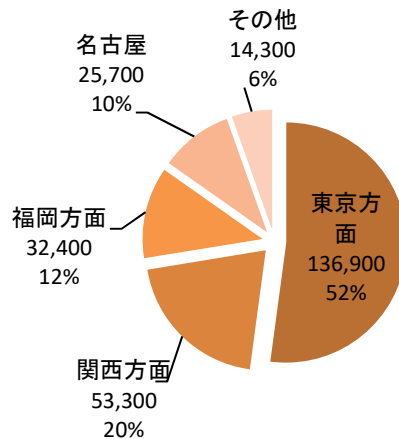
※国内海路客1,200人を含む(鹿児島1,200人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
韓国	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
中国本土	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
香港	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
アメリカ	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
タイ	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
シンガポール	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
その他	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
合計	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、減便規模の縮小や、前年同月では全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が一部地域(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)であった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、羽田-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

4月は、減便規模の縮小や、前年同月では全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が一部地域(大阪府、兵庫県、京都府)であった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、関西-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

4月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。減便規模の縮小や、前年同月では緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の適用を受けなかった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、福岡-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が発令された影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

4月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。減便規模の縮小や、前年同月では全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置の適用が一部地域(愛知県)であった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、中部-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が発令された影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

4月は、台湾(台北、台中、高雄)-那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

4月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)-那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

4月は、中国(上海、杭州、南京、重慶、青島)-那覇の5路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

4月は、香港-那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)5月 入域観光客数概況

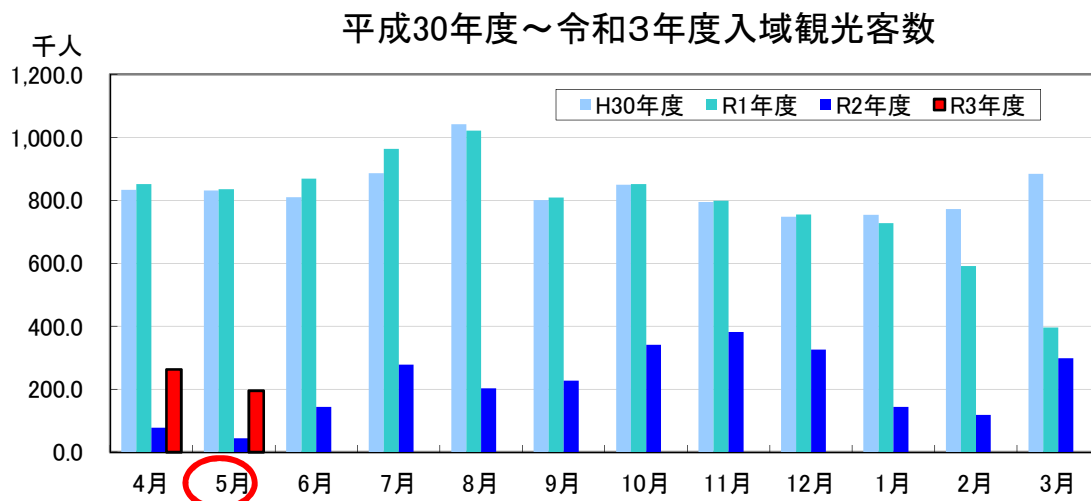
19万5,200人
 対前年(R2)同月比 +15万1,200人、+343.6%
 ~前月に続き対前年同月比で増加~
 ※対前々年(R1)同月比 △63万9,700人、△76.6%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較) ※外国客については、乗務員等を含む

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	195,200 人	44,000 人	+ 151,200人	+ 343.6%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	皆減	0.0%
合計	195,200 人	44,000 人	+ 151,200人	+ 343.6%	100.0%

(参考)乗務員等を除いた入域観光客数 R3年度 195,200人 R2年度 44,000人



国内客 入域状況

5月は、本土と那覇を結ぶ路線などでの減便規模の縮小、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言による移動自粛の要請が一部地域であった影響などから、前年同月を大きく上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

6月は、航空路線での運休・減便やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、また、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

5月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続き皆減となった。

6月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	108,800 人	27,300 人	+ 81,500人	+ 298.5%	55.7%
関西方面	34,300 人	7,400 人	+ 26,900人	+ 363.5%	17.6%
福岡方面	22,900 人	5,200 人	+ 17,700人	+ 340.4%	11.7%
名古屋	18,600 人	2,100 人	+ 16,500人	+ 785.7%	9.5%
その他	10,600 人	2,000 人	+ 8,600人	+ 430.0%	5.4%
合計	195,200 人	44,000 人	+ 151,200人	+ 343.6%	100.0%

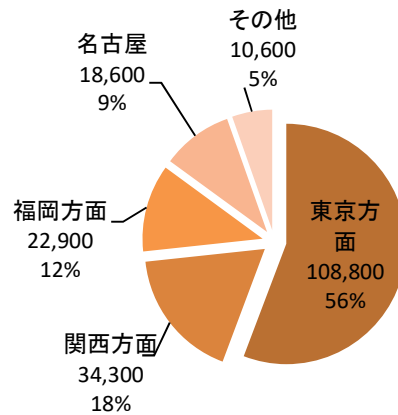
※国内海路客1,200人を含む(鹿児島1,200人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
韓国	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
中国本土	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
香港	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
アメリカ	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
タイ	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
シンガポール	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
その他	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
合計	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数	観光客数	増減率	構成比	観光客数	観光客数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)			(乗務員等含む)	(乗務員等除く)		
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。羽田－石垣路線などでの復便、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が一部地域(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、群馬県)であった影響などから、前年同月を上回った。

6月は、羽田－那覇路線などでの減便規模の拡大、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

5月は、関西－石垣路線などでの復便や、緊急事態宣言が一部地域(大阪府、兵庫県、京都府)であった影響などから、前年同月を上回った。

6月は、関西－那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

5月は、福岡－石垣路線の復便や、緊急事態宣言が一部地域(福岡県)であった影響などから、前年同月を上回った。

6月は、福岡－那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

5月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。名古屋－石垣路線などでの復便、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の適用が一部地域(愛知県、岐阜県、三重県)であった影響などから、前年同月を上回った。

6月は、中部－那覇路線などでの減便規模の拡大、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

5月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

6月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

5月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

6月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

5月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

6月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

5月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

6月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

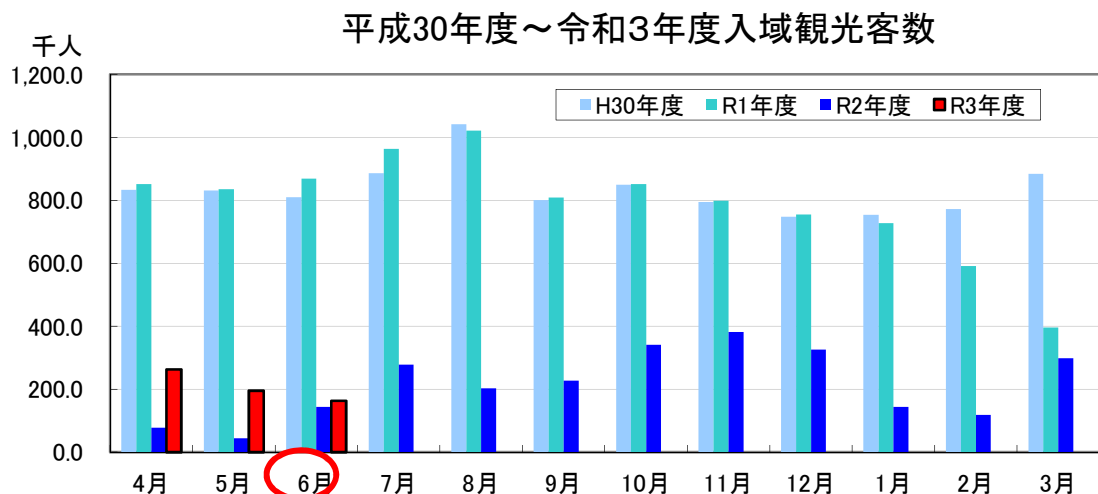
令和3年(2021)6月 入域観光客数概況

16万2,900人
 対前年(R2)同月比 +1万8,800人、+13.0%
 ~対前年同月比の伸び率が鈍化~
 ※対前々年(R1)同月比 △70万5,300人、△81.2%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	162,900 人	144,100 人	+ 18,800人	+ 13.0%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	皆減	0.0%
合計	162,900 人	144,100 人	+ 18,800人	+ 13.0%	100.0%



国内客 入域状況

6月は、沖縄県や一部地域において緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続されたものの、航空路線での新規就航や運航再開があった影響などから、前年同月を上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。
 7月は、航空路線での運休・減便やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

6月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続き皆減となった。
 7月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	95,000 人	80,800 人	+ 14,200人	+ 17.6%	58.3%
関西方面	30,500 人	27,900 人	+ 2,600人	+ 9.3%	18.7%
福岡方面	18,500 人	18,900 人	△ 400人	△ 2.1%	11.4%
名古屋	12,100 人	8,900 人	+ 3,200人	+ 36.0%	7.4%
その他	6,800 人	7,600 人	△ 800人	△ 10.5%	4.2%
合計	162,900 人	144,100 人	+ 18,800人	+ 13.0%	100.0%

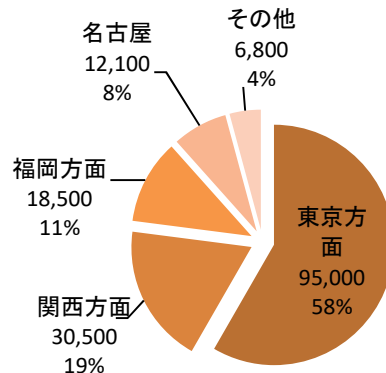
※国内海路客700人を含む(鹿児島700人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	△ 0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数	観光客数	増減率	構成比	観光客数	観光客数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)			(乗務員等含む)	(乗務員等除く)		
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続されたものの、減便規模の縮小、羽田ー下地島路線での新規就航や羽田ー石垣・宮古路線の運行再開があった影響などから、前年同月を上回った。

7月は、羽田ー那覇路線などでの減便継続、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

6月は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続されたものの、減便規模の縮小、関西ー石垣路線の運航再開があった影響などから、前年同月を上回った。

7月は、関西ー那覇路線などでの減便継続や、まん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

6月は、主要方面別の対前年同月比が唯一減少となった。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続された影響などから、前年同月を下回った。

7月は、福岡ー那覇路線などでの減便継続や、まん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

6月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続されたものの、減便規模の縮小、名古屋ー那覇・石垣路線の新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。

7月は、中部ー那覇路線などでの減便継続、まん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

6月は、台湾(台北、台中、高雄)ー那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

6月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)ー那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

7月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

6月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)ー那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

6月は、香港ー那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続き皆減となった。

7月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

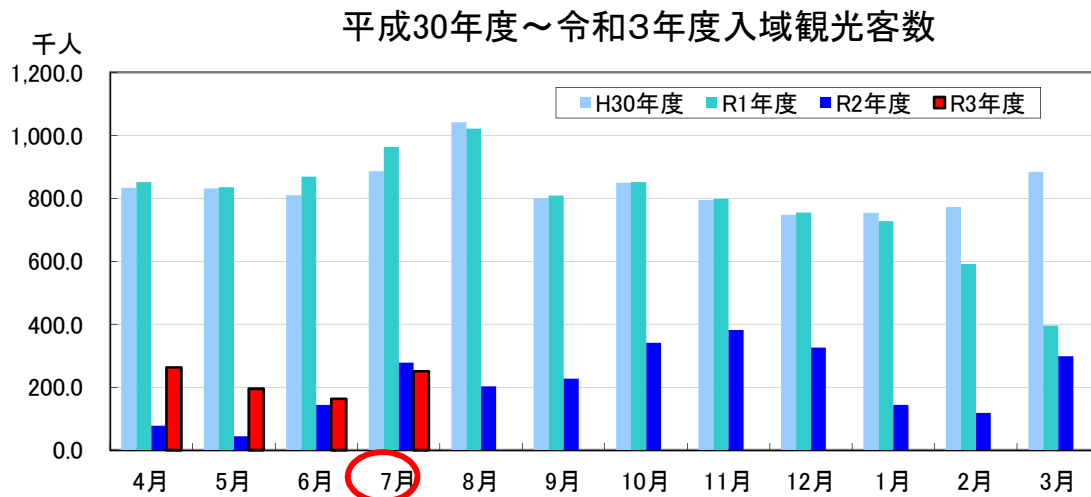
令和3年(2021)7月 入域観光客数概況

25万400人
 対前年(R2)同月比 △26,900人、△9.7%
 ～対前年同月比で4ヶ月ぶりに減少に転じる～
 ※対前々年(R1)同月比 △71万3,200人、△74.0%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	250,400 人	277,300 人	△ 26,900人	△ 9.7%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	0.0%	0.0%
合計	250,400 人	277,300 人	△ 26,900人	△ 9.7%	100.0%



国内客 入域状況

7月は、沖縄県や一部地域において緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されたことや、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。また、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

8月は、航空路線での運休・減便やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

7月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

8月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	136,000 人	139,600 人	△ 3,600人	△ 2.6%	54.3%
関西方面	52,400 人	64,800 人	△ 12,400人	△ 19.1%	20.9%
福岡方面	28,500 人	36,000 人	△ 7,500人	△ 20.8%	11.4%
名古屋	21,500 人	23,000 人	△ 1,500人	△ 6.5%	8.6%
その他	12,000 人	13,900 人	△ 1,900人	△ 13.7%	4.8%
合計	250,400 人	277,300 人	△ 26,900人	△ 9.7%	100.0%

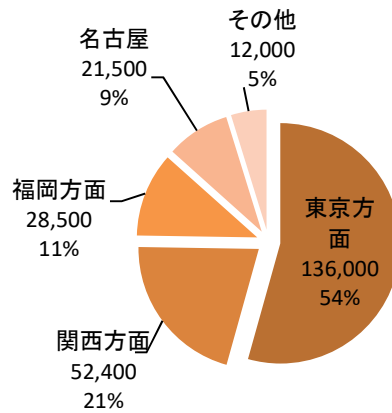
※国内海路客1,000人を含む(鹿児島1,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も小さかった。羽田－那覇路線などで減便規模が縮小されたものの、まん延防止等重点措置が適用されたことや、中旬から東京が緊急事態宣言の対象となった影響などから、前年同月を下回った。

8月は、羽田－那覇路線などでの減便継続、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

7月は、関西－那覇路線などで減便規模が縮小されたものの、まん延防止等重点措置が適用されたことや、関西－下地島路線で運休となったこと、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

8月は、関西－那覇路線などでの減便継続や、まん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

7月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。福岡－那覇路線や福岡－石垣路線で減便規模が拡大したことや、まん延防止等重点措置が適用されたこと、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

8月は、福岡－那覇路線などでの減便継続や、まん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

7月は、中部－那覇路線などで減便規模が縮小したものの、まん延防止等重点措置が適用されたことや、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

8月は、中部－那覇路線などでの減便継続、まん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

7月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

8月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

7月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

8月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

7月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

8月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

7月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

8月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)8月 入域観光客数概況

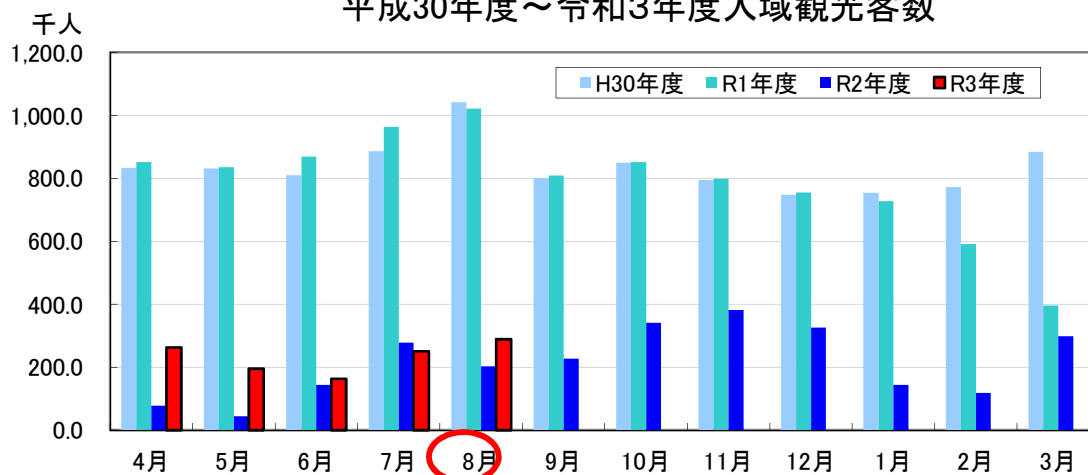
28万8,200人
 対前年(R2)同月比 +85,400人、+42.1%
 ～対前年同月比で増加に転じる～
 ※対前々年(R1)同月比 △73万3,000人、△71.8%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	288,200 人	202,800 人	+ 85,400人	+ 42.1%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	0.0%	0.0%
合計	288,200 人	202,800 人	+ 85,400人	+ 42.1%	100.0%

平成30年度～令和3年度入域観光客数



国内客 入域状況

8月は、沖縄県や一部地域において緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続されたものの、航空路線での新規就航や夏季期間の増便があった影響などから、前年同月を上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

9月は、航空路線での運休・減便やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

8月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

9月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	155,000 人	110,900 人	+ 44,100人	+ 39.8%	53.8%
関西方面	62,400 人	47,500 人	+ 14,900人	+ 31.4%	21.7%
福岡方面	30,100 人	20,300 人	+ 9,800人	+ 48.3%	10.4%
名古屋	24,500 人	13,900 人	+ 10,600人	+ 76.3%	8.5%
その他	16,200 人	10,200 人	+ 6,000人	+ 58.8%	5.6%
合計	288,200 人	202,800 人	+ 85,400人	+ 42.1%	100.0%

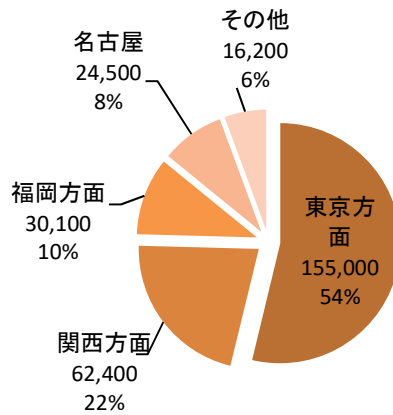
※国内海路客1,100人を含む(鹿児島1,100人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、緊急事態宣言の適用が継続されたものの、減便規模が縮小されたことや、羽田－那覇路線での新規就航及び羽田－石垣路線で夏季期間の増便があった影響などから、前年同月を上回った。

9月は、羽田－那覇路線などでの減便継続や緊急事態宣言が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

8月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。緊急事態宣言の適用やまん延防止等重点措置の継続があったものの、伊丹－那覇路線の増便や関西－宮古路線での期間増便があった影響などから、前年同月を上回った。

9月は、関西－那覇路線などでの減便継続や、緊急事態宣言が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

8月は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されたものの、福岡－那覇路線で期間増便があった影響などから、前年同月を上回った。

9月は、福岡－那覇路線などでの減便継続や、緊急事態宣言が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

8月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。緊急事態宣言の適用やまん延防止等重点措置の継続があったものの、中部－那覇・石垣路線の新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。

9月は、中部－那覇路線などでの減便継続、緊急事態宣言が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

8月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

9月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

8月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

9月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

8月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

9月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

8月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

9月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)9月 入域観光客数概況

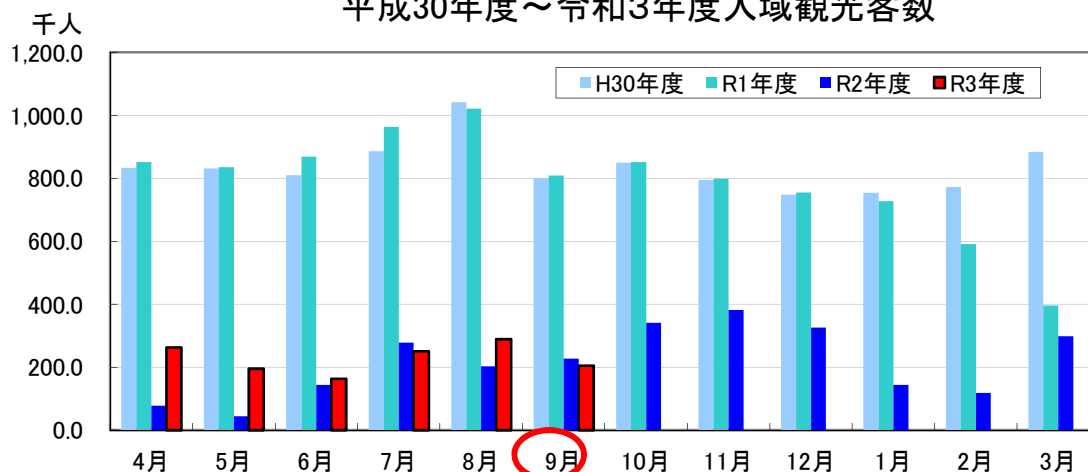
20万4,900人
 対前年(R2)同月比 △22,700人、△10%
 ～対前年同月比で減少に転じる～
 ※対前々年(R1)同月比 △60万4,400人、△74.7%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	204,900 人	227,600 人	△ 22,700人	△ 10.0%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	0.0%	0.0%
合計	204,900 人	227,600 人	△ 22,700人	△ 10.0%	100.0%

平成30年度～令和3年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、沖縄県や一部地域において緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続されたことや、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。また、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

10月は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除され、経済活動の再開に向けた実証実験などの取組が行われているものの、航空路線での運休・減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

9月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

10月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	117,000 人	120,800 人	△ 3,800人	△ 3.1%	57.1%
関西方面	41,800 人	50,400 人	△ 8,600人	△ 17.1%	20.4%
福岡方面	22,300 人	26,800 人	△ 4,500人	△ 16.8%	10.9%
名古屋	14,200 人	18,600 人	△ 4,400人	△ 23.7%	6.9%
その他	9,600 人	11,000 人	△ 1,400人	△ 12.7%	4.7%
合計	204,900 人	227,600 人	△ 22,700人	△ 10.0%	100.0%

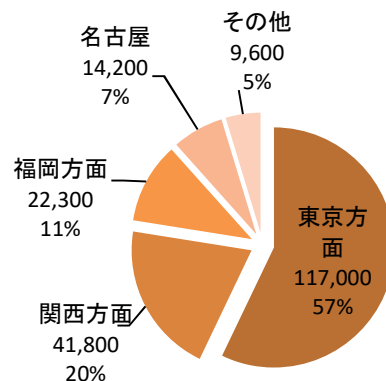
※国内海路客700人を含む(鹿児島700人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数	観光客数	増減率	構成比	観光客数	観光客数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)			(乗務員等含む)	(乗務員等除く)		
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も小さかった。減便規模の縮小があったものの、緊急事態宣言の適用が継続された影響などから、前年同月を下回った。
10月は、緊急事態宣言が解除されたものの、羽田-那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

9月は、減便規模の縮小があったものの、緊急事態宣言の適用やまん延防止等重点措置の継続があった影響などから、前年同月を下回った。
10月は、緊急事態宣言が解除されたものの、関西-那覇路線などで減便が継続が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

9月は、減便規模の縮小があったものの、緊急事態宣言の適用が継続された影響などから、前年同月を下回った。
10月は、緊急事態宣言が解除されたものの、福岡-那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

9月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。減便規模の縮小があったものの、緊急事態宣言の適用が継続された影響などから、前年同月を下回った。
10月は、緊急事態宣言が解除されたものの、中部-那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

9月は、台湾(台北、台中、高雄)-那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
10月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

9月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)-那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
10月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

9月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)-那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
10月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

9月は、香港-那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
10月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

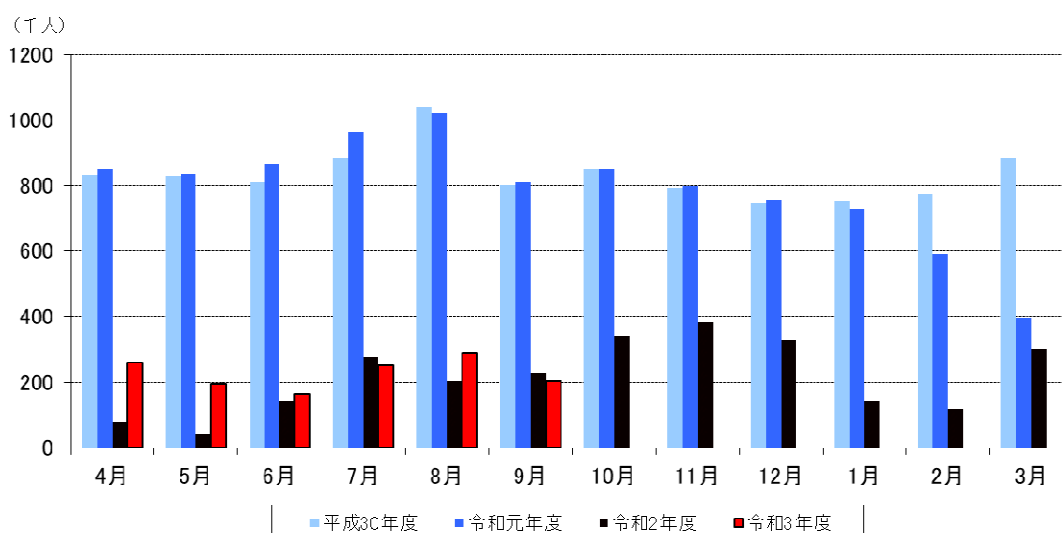
令和3年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和3年10月発表

令和3年度上半期 136万4,200人
対前年度(R2)比 +39万1,100人、+40.2%
過去最大の減少となった対前年同期から増加に転じる
※対前々年(R1)比 △398万4,400人 △74.5%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成30年度～令和3年度）



■令和3年度上半期入域観光客の状況（令和2年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和3年度	262,600	195,200	162,900	250,400	288,200	204,900	1,364,200
令和2年度	77,300	44,000	144,100	277,300	202,800	227,600	973,100
増減数	185,300	151,200	18,800	-26,900	85,400	-22,700	391,100
増減率	239.7%	343.6%	13.0%	-9.7%	42.1%	-10.0%	40.2%

■令和3年度上半期の概況（総括）

令和3年度上半期の入域観光客数は、136万4,200人となり、対前年同期比で39万1,100人、率にして40.2%の増となり、過去最大の減少幅となった前年同期から増加に転じた。

国内観光客については、減便規模の縮小や羽田－那覇路線などで増便があったことなどから、前年同期を上回った。また、特に4月から5月については、前年では全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、今年は措置の適用による移動自粛の要請が一部地域であったことなどから、増加となった。

しかし、前々年同期と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

また、外国人観光客については、諸外国による日本への渡航制限や海外から日本への入国制限措置がとられたことなどから前年に引き続きゼロとなった。

国内観光客についての動向

■令和3年度上半期国内観光客の状況（令和2年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和3年度	262,600	195,200	162,900	250,400	288,200	204,900	1,364,200
令和2年度	77,300	44,000	144,100	277,300	202,800	227,600	973,100
増減数	185,300	151,200	18,800	-26,900	85,400	-22,700	391,100
増減率	239.7%	343.6%	13.0%	-9.7%	42.1%	-10.0%	40.2%

■国内観光客の概況

前年の4月から5月にかけて全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、措置の適用による移動自粛の要請が一部地域であったことや、航空路線における減便規模の縮小、夏季期間における季節便運航があったことなどから、前年同期を上回った。

下半期は、ワクチン接種の普及と併せ、国においてワクチン接種・検査陰性証明を活用した実証実験が行われるなど経済活動の再開に向けた取組が実施されていること、GoToトラベル事業の再開が検討されていることなどから、旅行需要の回復が期待されるものの、感染状況の影響を受けることが予想されるため動向を注視していく必要がある。

外国人観光客についての動向

■令和3年度上半期外国人観光客の状況（令和2年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和3年度	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0
増減数	0	0	0	0	0	0	0
増減率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

■外国人観光客の概況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、前年の4月3日以降、台湾、中国、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

下半期は、ワクチン接種の普及により、海外では外国人観光客の受入再開を行う国が徐々に増えてきているが、我が国においては入国制限措置が継続されており、当面厳しい状況が予想される。

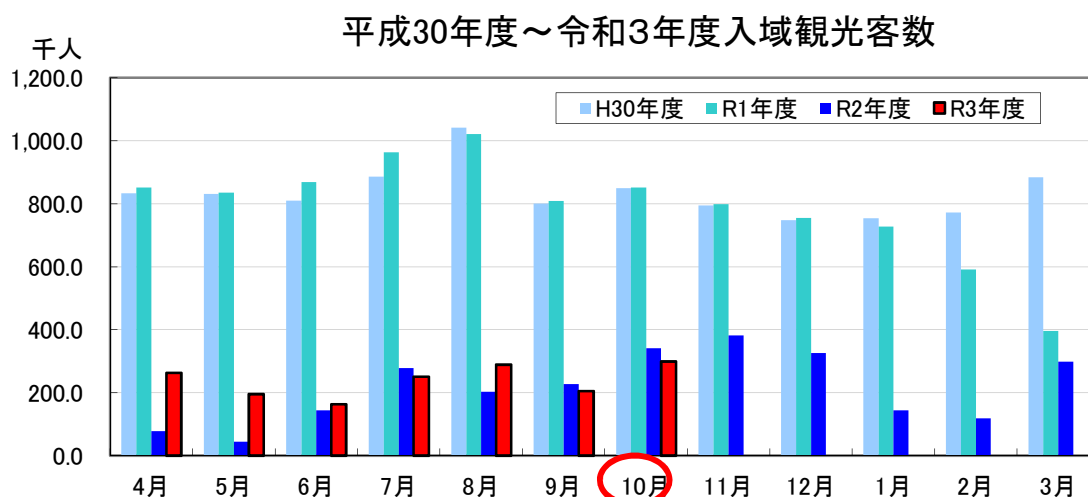
令和3年(2021)10月 入域観光客数概況

29万9,000人
 対前年(R2)同月比 △42,200人、△12.4%
 ～対前年同月比で2ヶ月連続減少～
 ※対前々年(R1)同月比 △55万2,300人、△64.9%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	299,000 人	341,200 人	△ 42,200人	△ 12.4%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	0.0%	0.0%
合計	299,000 人	341,200 人	△ 42,200人	△ 12.4%	100.0%



国内客 入域状況

10月は、Go Toトラベル事業が一時停止されていること、緊急事態宣言解除後は各地域で行動制限の段階的緩和措置がとられた影響などから、前年同月を下回った。また、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

11月は、パッケージツアーなどの実証実験の取組と併せ段階的に経済活動が再開されており、一定程度の回復が見込まれるものの、航空路線での運休・減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

10月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	153,800 人	180,900 人	△ 27,100人	△ 15.0%	51.4%
関西方面	64,700 人	73,000 人	△ 8,300人	△ 11.4%	21.6%
福岡方面	38,500 人	40,200 人	△ 1,700人	△ 4.2%	12.9%
名古屋	26,500 人	29,000 人	△ 2,500人	△ 8.6%	8.9%
その他	15,500 人	18,100 人	△ 2,600人	△ 14.4%	5.2%
合計	299,000 人	341,200 人	△ 42,200人	△ 12.4%	100.0%

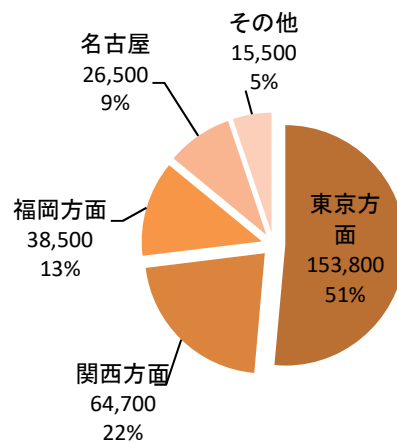
※国内海路客700人を含む(鹿児島700人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。羽田－那覇路線などで新規就航や増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されていることや減便規模が拡大した影響などから、前年同月を下回った。

11月は、羽田－那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

10月は、減便規模の縮小や伊丹－那覇路線での増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

11月は、関西－那覇路線などで減便が継続が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

10月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も小さかった。減便規模の縮小や福岡－那覇路線で増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

11月は、福岡－那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

10月は、名古屋－那覇路線などで新規就航や増便があったものの、減便規模の拡大やGo Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

11月は、中部－那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

10月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

10月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

10月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

10月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)11月 入域観光客数概況

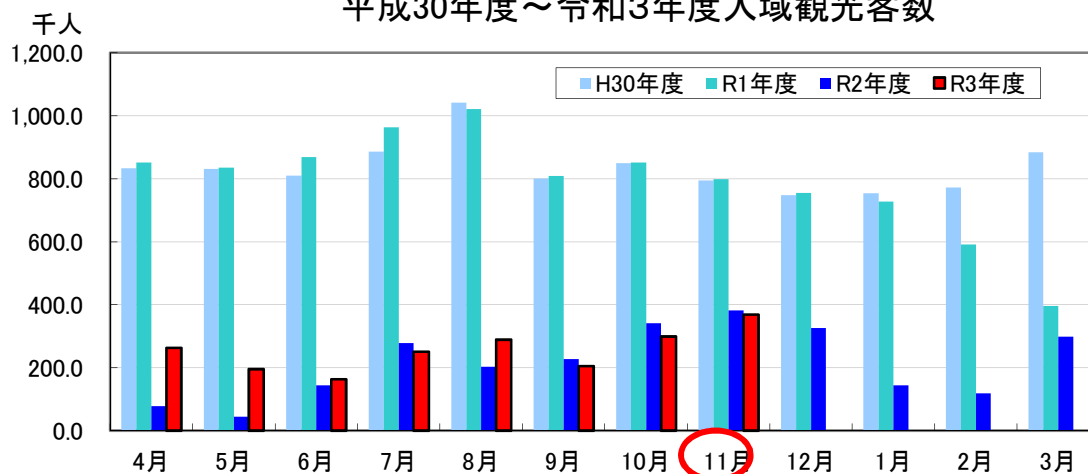
36万8,000人
 対前年(R2)同月比 △13,100人、△3.4%
 ～対前年同月比で3ヶ月連続減少～
 ※対前々年(R1)同月比 △43万1,200人、△54.0%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	368,000 人	381,100 人	△ 13,100人	△ 3.4%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	0.0%	0.0%
合計	368,000 人	381,100 人	△ 13,100人	△ 3.4%	100.0%

平成30年度～令和3年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、段階的な経済活動の再開により減便率が縮小するなど回復傾向が見られるものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。また、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

12月は、経済活動が徐々に活発化しており、相当程度の回復が見込まれるものの、航空路線での運休・減便が継続されていることから、動向を注視する必要がある。

外国客 入域状況

11月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

12月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	178,200 人	191,700 人	△ 13,500人	△ 7.0%	48.4%
関西方面	79,400 人	83,000 人	△ 3,600人	△ 4.3%	21.6%
福岡方面	52,200 人	47,600 人	+ 4,600人	+ 9.7%	14.2%
名古屋	32,500 人	33,300 人	△ 800人	△ 2.4%	8.8%
その他	25,700 人	25,500 人	+ 200人	+ 0.8%	7.0%
合計	368,000 人	381,100 人	△ 13,100人	△ 3.4%	100.0%

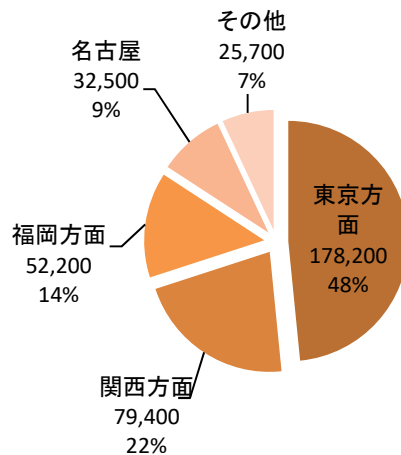
※国内海路客1,300人を含む(鹿児島1,300人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。減便規模の縮小や羽田－那覇路線などで新規就航や増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

12月は、羽田－那覇路線で減便規模の縮小が見込まれるものの、成田－那覇路線で減便が継続されていることから、動向を注視する必要がある。

関西

11月は、減便規模の縮小や伊丹－那覇路線での増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

12月は、伊丹－那覇路線などで減便規模の縮小が見込まれるものの、関西－那覇路線などで減便が継続されていることから、動向を注視する必要がある。

福岡

11月は、主要方面別において唯一対前年同月比で増加となった。Go Toトラベル事業が一時停止されているものの、減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。

12月は、福岡－那覇路線で減便規模の縮小が見込まれるものの、減便が継続されていることや北九州－那覇路線で運休となっていることから、動向を注視する必要がある。

名古屋

11月は、減便規模の縮小、名古屋－那覇路線などで新規就航や増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

12月は、中部－那覇路線で減便規模の縮小が見込まれるものの、減便が継続されていることから、動向を注視する必要がある。

台湾

11月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

12月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

11月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

12月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

11月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

12月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

11月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

12月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和3年(2021)12月 入域観光客数概況

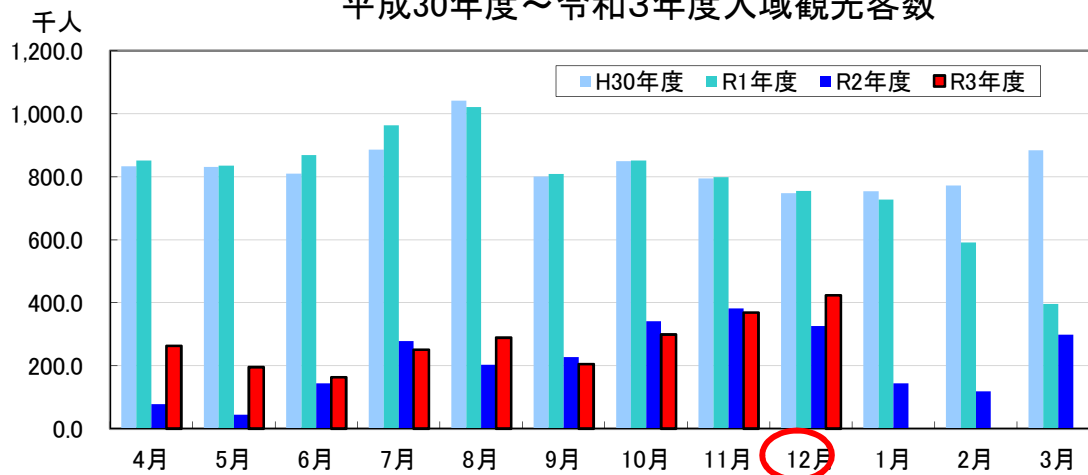
42万3,600人
 対前年(R2)同月比 +97,400人、+29.9%
 ～対前年同月比で4ヶ月ぶりに増加に転じる～
 ※対前々年(R1)同月比 △33万1,500人、△43.9%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	423,600 人	326,200 人	+ 97,400人	+ 29.9%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	0.0%	0.0%
合計	423,600 人	326,200 人	+ 97,400人	+ 29.9%	100.0%

平成30年度～令和3年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、感染状況が落ち着いたことやワクチン接種の普及などにより、旅行需要が一定程度回復したことなどから、感染が拡大傾向であった前年同月を上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

1月は、感染再拡大により沖縄県や一部地域においてまん延防止等重点措置が適用されていることや、航空路線で減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

12月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

1月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	207,200 人	164,800 人	+ 42,400人	+ 25.7%	48.9%
関西方面	88,300 人	66,600 人	+ 21,700人	+ 32.6%	20.8%
福岡方面	57,600 人	42,100 人	+ 15,500人	+ 36.8%	13.6%
名古屋	39,800 人	30,400 人	+ 9,400人	+ 30.9%	9.4%
その他	30,700 人	22,300 人	+ 8,400人	+ 37.7%	7.2%
合計	423,600 人	326,200 人	+ 97,400人	+ 29.9%	100.0%

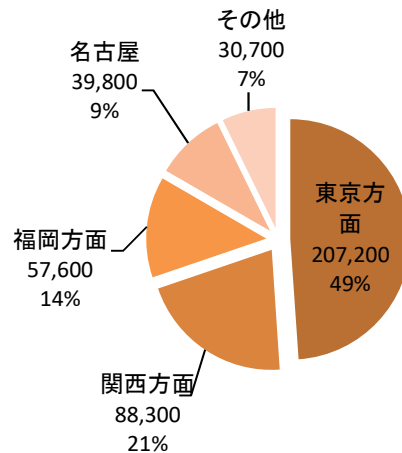
※国内海路客1,000人を含む(鹿児島1,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。減便規模の縮小や羽田－那覇路線などで新規就航や増便があった影響などから、前年同月を上回った。

1月は、羽田－那覇路線等で臨時便の運航があったものの、成田－石垣路線等における減便規模の拡大や、沖縄県や一部地域(東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・群馬県)においてまん延防止等重点措置が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

12月は、関西－那覇路線等で減便規模が拡大したものの、伊丹－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。

1月は、伊丹－那覇路線で増便があるものの、関西－那覇路線等における減便規模の拡大や、沖縄県においてまん延防止等重点措置が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

12月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。

1月は、福岡－石垣路線で臨時便の運航があったものの、福岡－那覇路線における減便規模の拡大や、沖縄県においてまん延防止等重点措置が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

12月は、名古屋－那覇路線などで新規就航や増便があった影響などから、前年同月を上回った。

1月は、名古屋－那覇路線における減便規模の拡大や、沖縄県や一部地域(愛知県・岐阜県・三重県)においてまん延防止等重点措置が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

12月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

1月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

12月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

1月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

12月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

1月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

12月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

1月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

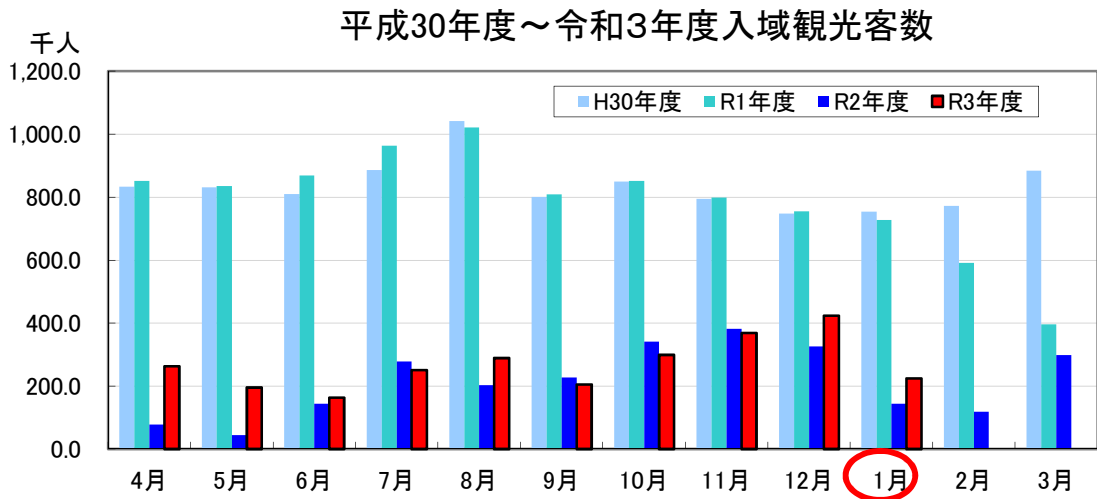
令和4年(2022)1月 入域観光客数概況

22万4,600人
 対前年(R3)同月比 +80,600人、+56.0%
 ～対前年同月比で2ヶ月連続の増加～
 ※対前々年(R2)同月比 △50万3,200人、△69.1%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	224,600 人	144,000 人	+ 80,600人	+ 56.0%	100.0%
外国客	0 人	0 人	0人	0.0%	0.0%
合計	224,600 人	144,000 人	+ 80,600人	+ 56.0%	100.0%



国内客 入域状況

1月は、沖縄県や一部地域においてまん延防止等重点措置が適用されていることに対し、昨年同月では沖縄県や一部地域で緊急事態措置がとられたこと、また、減便規模の縮小やワクチン接種が普及していることなどから、前年同月を上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

2月は、沖縄県で2月20日までまん延防止等重点措置が適用されていたことや一部地域において措置が継続されていること、航空路線で減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

1月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

2月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	109,900 人	68,400 人	+ 41,500人	+ 60.7%	48.9%
関西方面	48,000 人	28,500 人	+ 19,500人	+ 68.4%	21.4%
福岡方面	30,400 人	22,000 人	+ 8,400人	+ 38.2%	13.5%
名古屋	19,400 人	11,400 人	+ 8,000人	+ 70.2%	8.6%
その他	16,900 人	13,700 人	+ 3,200人	+ 23.4%	7.5%
合計	224,600 人	144,000 人	+ 80,600人	+ 56.0%	100.0%

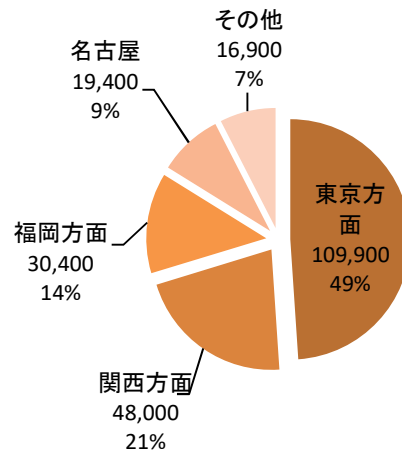
※国内海路客800人を含む(鹿児島800人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、減便規模の縮小や羽田－那覇路線などで新規就航や増便があった影響などから、前年同月を上回った。

2月は、減便規模の拡大や、沖縄県や一部地域(東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・群馬県・栃木県・茨城県)においてまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

1月は、減便規模の縮小や伊丹－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。

2月は、伊丹－那覇路線で増便があるものの、関西－那覇路線等における減便規模の拡大や、沖縄県や一部地域(大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県)においてまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

1月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。

2月は、福岡－那覇路線における減便規模の拡大や、沖縄県や福岡県においてまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

1月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。減便規模の縮小や名古屋－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。

2月は、名古屋－那覇路線における減便規模の拡大や、沖縄県や一部地域(愛知県・岐阜県・三重県)においてまん延防止等重点措置が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

1月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

2月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

1月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

2月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

1月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

2月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

1月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

2月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

令和4年(2022)2月 入域観光客数概況

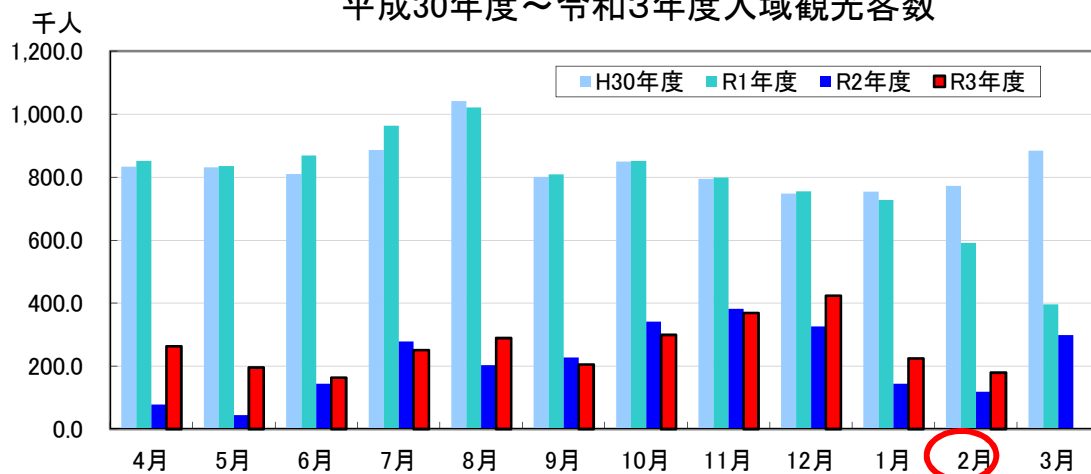
17万9,200人
 対前年(R3)同月比 +60,400人、+50.8%
 ～対前年同月比で3ヶ月連続の増加～
 ※対前々年(R2)同月比 △41万1,700人、△69.7%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	179,200 人	118,800 人	+ 60,400人	+ 50.8%	100.0%
外国客	0 人	0 人	0人	0.0%	0.0%
合計	179,200 人	118,800 人	+ 60,400人	+ 50.8%	100.0%

平成30年度～令和3年度入域観光客数



国内客 入域状況

2月は、沖縄県や一部地域においてまん延防止等重点措置が適用されたことに対し、昨年同月では沖縄県や一部地域で緊急事態措置がとられたこと、また、減便規模の縮小やワクチン接種が普及していることなどから、前年同月を上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

3月は、都市部などの一部地域においてまん延防止等重点措置が継続されていたこと、航空路線で減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

2月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

3月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	92,900 人	60,300 人	+ 32,600人	+ 54.1%	51.8%
関西方面	35,800 人	23,800 人	+ 12,000人	+ 50.4%	20.0%
福岡方面	25,000 人	17,800 人	+ 7,200人	+ 40.4%	14.0%
名古屋	15,700 人	8,600 人	+ 7,100人	+ 82.6%	8.8%
その他	9,800 人	8,300 人	+ 1,500人	+ 18.1%	5.5%
合計	179,200 人	118,800 人	+ 60,400人	+ 50.8%	100.0%

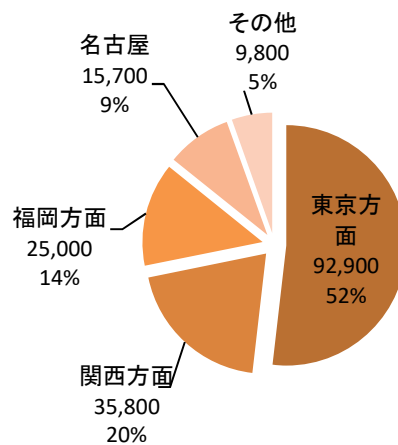
※国内海路客500人を含む(鹿児島500人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、減便規模の縮小や羽田－那覇路線などで新規就航や増便があった影響などから、前年同月を上回った。

3月は、羽田－那覇路線等で減便が継続されていることや、一部地域(東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・群馬県・栃木県・茨城県)においてまん延防止等重点措置が継続されていた影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

2月は、減便規模の縮小や伊丹－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。

3月は、関西－那覇路線等で減便が継続されていることや、一部地域(大阪府・京都府・兵庫県)においてまん延防止等重点措置が継続されていた影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

2月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。

3月は、福岡県におけるまん延防止等重点措置が解除されたものの、福岡－那覇路線等で減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

2月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。減便規模の縮小や名古屋－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。

3月は、名古屋－那覇路線等で減便が継続されていることや、一部地域(愛知県・岐阜県)においてまん延防止等重点措置が継続されていた影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

2月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

3月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

2月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

3月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

2月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

3月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

2月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

3月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

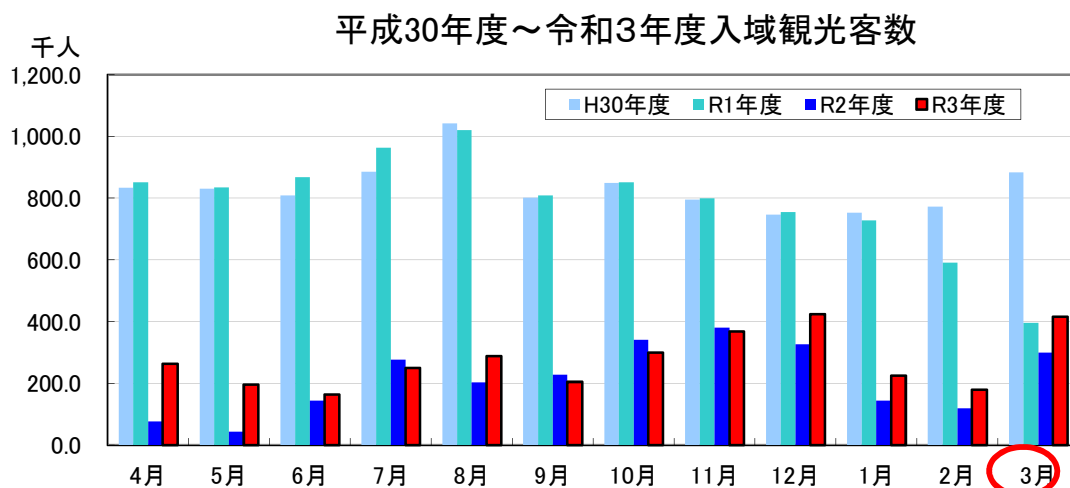
令和4年(2022)3月 入域観光客数概況

41万5,700人
 対前年(R3)同月比 +116,500人、+38.9%
 ~対前年同月比で4ヶ月連続の増加~
 ※対前々年(R2)同月比 +1万9,400人、+4.9%
 ※(H31)同月比 Δ46万8,300人、Δ53.0%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	415,700 人	299,200 人	+ 116,500人	+ 38.9%	100.0%
外国客	0 人	0 人	0人	0.0%	0.0%
合計	415,700 人	299,200 人	+ 116,500人	+ 38.9%	100.0%



国内客 入域状況

3月は、一部地域においてまん延防止等重点措置が適用されていたことに対し、昨年同月では一部地域で緊急事態措置がとられたこと、また、減便規模の縮小やワクチン接種が普及していることなどから、前年同月を上回った。しかし、コロナ前の平成31年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

4月は、まん延防止等重点措置が解除となり、大型連休を控えていることなど、旅行需要の回復が期待されるものの、航空路線で減便が継続されていることや新規感染者数が増加傾向にあることから、状況を注視する必要がある。

外国客 入域状況

3月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

4月は、日本への入国制限措置について段階的に緩和されているものの、観光目的での入国は認められていないことなどから、当面厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	204,000 人	143,800 人	+ 60,200人	+ 41.9%	49.1%
関西方面	91,700 人	67,000 人	+ 24,700人	+ 36.9%	22.1%
福岡方面	54,200 人	41,800 人	+ 12,400人	+ 29.7%	13.0%
名古屋	41,500 人	27,900 人	+ 13,600人	+ 48.7%	10.0%
その他	24,300 人	18,700 人	+ 5,600人	+ 29.9%	5.8%
合計	415,700 人	299,200 人	+ 116,500人	+ 38.9%	100.0%

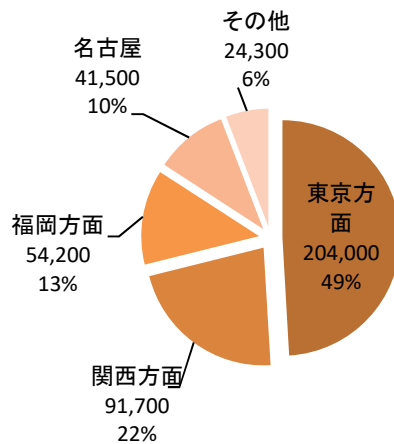
※国内海路客1,300人を含む(鹿児島1,300人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は、減便規模の縮小や羽田－那覇路線などで新規就航や増便があった影響などから、前年同月を上回った。
4月は、まん延防止等重点措置が解除され、旅行需要の回復が期待されるものの、羽田－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

関西

3月は、減便規模の縮小や伊丹－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。
4月は、まん延防止等重点措置が解除され、旅行需要の回復が期待されるものの、関西－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

福岡

3月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。減便規模の縮小や福岡－石垣路線で新規就航があった影響などから、前年同月を上回った。
4月は、まん延防止等重点措置が解除され、旅行需要の回復が期待されるものの、福岡－那覇路線等で減便が継続されている影響などから、状況を注視していく必要がある。

名古屋

3月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。減便規模の縮小や名古屋－那覇路線で増便があった影響などから、前年同月を上回った。
4月は、まん延防止等重点措置が解除され、旅行需要の回復が期待されるものの、名古屋－那覇路線等で減便が継続されていることなどから、状況を注視していく必要がある。

台湾

3月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
4月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

3月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
4月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

3月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから引き続きゼロとなった。
4月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

3月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。
4月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。